

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年9月12日

【評価実施概要】

事業所番号	3873700441		
法人名	医療法人青峰会		
事業所名	アクティブライフ保内		
所在地	八幡浜市保内町宮内1番耕地324番地 (電話) 0894-36-2103		
管理者	岡田 奈美		
評価機関名	特定非営利活動法人 JMACS		
所在地	松山市千舟町六丁目1-3チフネビル501		
訪問調査日	平成20年7月16日	評価確定日	平成20年9月12日

【情報提供票より】 (平成20年7月1日事業所記入)

(1)組織概要			
開設年月日	平成16年8月9日		
ユニット数	2ユニット	利用定員数計	18人
職員数	15人	常勤	14人, 非常勤 1人, 常勤換算 13.7人
(2)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)			
家賃(平均月額)	40,000円	その他の経費(月額)	利用状況により異なる
敷金	有(円) (無)		
保証金の有無(入居一時金含む)	有(円) (無)	有りの場合償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	300円	昼食 300円
	夕食	400円	おやつ 円
	または1日当たり 円		
(3)利用者の概要 (平成20年7月1日現在)			
利用者人数	18名	男性 5名	女性 13名
要介護1	1名	要介護2	3名
要介護3	6名	要介護4	7名
要介護5	1名	要支援2	0名
年齢	平均 84.2歳	最低 74歳	最高 98歳
(4)他に事業所として指定等を受けている事業及び加算			
指定 (あり)・なし	指定介護予防認知症対応型共同生活介護		
指定 あり・(なし)	指定認知症対応型通所介護		
届出 あり・(なし)	短期利用共同生活介護		
加算 (あり)・なし	医療連携体制加算		

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

<p>入居時、生活歴等を聞き取られたり、介護計画を作成する際にもご本人、ご家族に思いや意向を聞くようにされている。意思表示の難しい方についても表情や行動から探ったり、選んでいただけるような場面作りをされている。</p> <p>現在、重度化に伴い、食事の支度を手伝える利用者が少なくなっている。食材を切ったり、お盆を拭く等できることを無理なく行えるよう支援されている。畑で獲れた小松菜やトマト、ブルーベリーが食卓に上り、水遣りや収穫をした利用者に感謝しながら食事をされている</p>
--

【質向上への取組状況】

<p>前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>・前回の評価結果を受けて改善計画を立て取り組まれており、介護計画作成時にご家族にご意見をうかがうことに努められた。</p>
<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>・職員個々が自己評価に取り組み、項目を職員で分担してまとめられた。職員は、日々の振り返りだけではなく、お互いの考え方も分かり合える機会となったと話されていた。</p>
<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>・年間を通じて大枠での検討課題を決め、会議をすすめておられる。事業所の活動報告がなされている。地域の方からボランティアの紹介や避難訓練の実施をすすめていただいた。</p>
<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>・「職員の名前が分からない」というご家族の意見を受け、玄関に職員全員の写真と名前を掲示された。ご家族に介護計画に対する意見を直接聴くようにされ、具体的な意見をいただけるようになった。</p>
<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>・中学生の職場体験を受け入れておられる。回覧板等により地域行事の情報を得て、参加されているが、現在、利用者の重度化に伴い参加できる方が少なくなっている。</p>

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

.理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用
4. 理念を実践するための体制
5. 人材の育成と支援

.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を活かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

.サービスの成果に関する項目

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

- サービス向上への3ステップ -

【記入方法】

指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議の上記入すること。

各自己評価項目について、「取組みの事実」を記入し、取組みたいに を付け、適宜その内容を記入すること。

「取組みの事実」は必ず記入すること。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含む。
(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含む。

チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含む。

事業所名 アクティブライフ保内

(ユニット名) A棟

記入者(管理者)
氏名 岡田奈美

評価完了日 平成 20年 7月 5日

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.理念に基づく運営					
1.理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	(自己評価)		
			H20.3より、地域・家族との関係を取り入れた理念へと変更している。以前、スタッフにどんなホームにしたいかというアンケートを行い、その結果を元に理念を作り上げている。		
			(外部評価)		
			地域・ご家族・ホーム内における相互のふれあいを重視した理念を、職員全員で作っておられる。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	(自己評価)		
			玄関に掲示し、実践できるよう取り組んでいる。家族、ホーム内での取り組みには力を入れ努力しているが、地域とのふれあいは十分にできていない。		十分共有できるようスタッフルームにも貼り出し、理念に沿った支援ができるよう、特に地域との関わりにおいて力を入れていきたい。
			(外部評価)		
			理念を玄関に掲示し、スタッフ会等で繰り返し確認されている。		
3		家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	(自己評価)		
			ホームのパンフレットに取り上げ、運営推進会議や見学者に説明している。また玄関に掲示し来客者や家族にわかりやすくしている。地域の人々へは十分に浸透していない。		

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. 地域との支えあい					
4		隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	(自己評価) あいさつ、会釈をしたり、回覧板を持っていく際には笑顔で会話するよう心掛けている。気軽に立ち寄ってもらうような日常的な付き合いは行っていない。		散歩したり、買い物機を増やし、近所の方と顔を合やす機会を増やす。スタッフは挨拶をしっかりとるよう再度徹底する。
5	3	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	(自己評価) 地域の美化運動、夏祭り、秋祭り、避難訓練等、出来る限り参加してきた。車椅子の入居者も多く、参加人数が少なく、また、十分に地元の人々との交流には至っていない。 (外部評価) 中学生の職場体験を受け入れておられる。回覧板等により地域行事の情報を得て、参加されているが、現在、利用者の重度化に伴い参加できる方が少なくなっている。		スタッフ人数を確保し、参加人数を増やしていきたい。また、交流の場へ出るとともに、声掛けなどコミュニケーションをとるよう努めていきたい。 さらに、地域の方に事業所に立ち寄っていただく機会を作る等、地域と行き来できるような機会や関係作り等も期待される。
6		事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	(自己評価) ホーム内の利用者の支援に精一杯で地域の高齢者への支援に至っていない。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
7	4	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	(自己評価) スタッフの入れ替わりはあるものの毎年、自己評価・外部評価することによってその都度見直しが出来ている。スタッフ会で話し合い改善に努めている。 (外部評価) 職員個々が自己評価に取り組み、項目を職員で分担してまとめられた。職員は、日々の振り返りだけではなく、お互いの考え方等も分かり合える機会となったと話されていた。又、前回の評価結果を受けて改善計画を立て取り組まれており、介護計画作成時にご家族にご意見をうかがうことに努められた。		改善計画をきちんと立て、スタッフが共有し取り組んでいく。

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
8	5	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの 実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 会議を通し、情報交換、交流の機会へつながっている。アドバイスを受け実際にサービスにつながるものもあれば難しい意見もある。昨年は、運営推進会議で紹介していただきボランティアの方にミニコンサートを開いていただいた。		意見は真摯に受け止め吟味していきたい。また、会議に参加していないスタッフとも会議で出た意見を共有するよう努めたい。
			(外部評価) 年間を通じて大枠での検討課題を決め、会議をすすめておられる。事業所の活動報告がなされている。地域の方からボランティアの紹介や避難訓練の実施をすすめていただいた。		
9	6	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	(自己評価) 現在、八幡浜市では認知症の支援に力を入れており、研修の機会も多く、市内のGH連絡会等も開催されている。疑問や相談など解決に向け協力していただいている。		
			(外部評価) 市主催の介護にかかわる研修の開催も多く、職員は、積極的に出席をされている。市の担当者とEメールで相談もされており、早急にお返事をいただけるようになっている。		
10		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	(自己評価) 研修や勉強会には出来る限り参加している。実際に制度が必要な方がおらず支援も行っていない。		スタッフ全員が制度や事業内容を把握できていないので、研修、勉強会へは引き続き参加していきたい。また、対象者がいれば、スタッフ会でも取り上げ、皆で学ぶ機会にしたい。
11		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 法人の付帯施設の勉強会で学んだり、資料を回覧したりしている。しかし、全員が十分な知識を持っていない。		スタッフの入れ替わりもあり、再度虐待に当たる行為を確認したい。皆で日頃の支援を見直していきたい。

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
12		契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 重要事項説明書の内容の説明は丁寧に行っている。契約には十分な時間をかけ、不明な点・疑問点はすぐに回答するようにしている。		
13		運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 介護相談員の来所で聞いてもらったり、スタッフとは普段からコミュニケーションをとり苦情や不満など聞くようにしている。申し送りやスタッフ会で話し合い解決に向け取り組んでいる。		
14	7	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	(自己評価) 日常の様子、行事、スタッフの異動などはホーム新聞で伝えている。個人の様子、健康状態など変わったことがあれば電話したり、来所時、様子を伝えるようにしている。		
			(外部評価) 毎月のホーム新聞にて、事業所での状況を写真を載せて報告し、ご家族に喜ばれている。ご家族の来訪時や必要に応じて電話で報告をされている。		
15	8	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 普段からスタッフ全員がコミュニケーションをとり、意見や要望、不満など聞くようにしている。何かあれば業務日誌に記入し申し送りし、スタッフが共有して改善するよう努めている。 また、契約時に苦情相談窓口として母体病院の医療情報課や公的機関も紹介している。		
			(外部評価) 「職員の名前が分からない」というご家族の意見を受け、玄関に職員全員の写真と名前を掲示された。ご家族に介護計画に対する意見を直接聴くようにされ、具体的な意見をいただけるようになった。		

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
16		運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 月1回、スタッフ会を開催して意見や提案を出し合っている。内容によっては管理者が上司に相談・要望するようにしている。		
17		柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	(自己評価) 利用者の入居、退居、通院や外出等には対応するように努めている。 人員少なめではあるが、急な勤務交代にも協力、対応できている。		
18	9	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	(自己評価) ホーム内での異動では新しいスタッフに対し利用者の生活歴や性格等が説明されている。 以前からいるスタッフが利用者にスタッフ変更によるダメージを与えないように心掛けている。 (外部評価) 法人内の異動や退職者により利用者にダメージを与えないよう、情報の共有や話かけでカバーするよう努力されている。		さらに、利用者個々の穏やかな暮らしを支援するためにも、職員の異動等による利用者のダメージを防ぐ配慮について、工夫を重ねていかれることが期待される。
5. 人材の育成と支援					
19	10	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 法人の運営者は、研修規定をもうけ、研修を推進している。 法人内の研修には、月に1、2人は参加している。法人外の研修にも交代で参加している。 (外部評価) 法人内で新人研修を行っておられる。又、毎月ニーズに沿ったテーマで研修を実施し、職員が交代で参加されている。外部研修は勤務のやりくりをしたり、休みを利用して参加され、スタッフ会にて報告し、周知されている。		

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
20	11	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価)		
			管理者は、市内のホーム、法人のホームとの交流の機会が多く、意見交換がよくできているが、スタッフは交流の機会が少ない。 昨年は同じ地域の他ホームの夏祭りに参加したり、研修などで少しではあるが顔を合わせる機会があった。		グループホーム連絡協議会が行っている相互研修への参加を検討していきたい。
			(外部評価)		
			市内のグループホーム連絡会が事業所ごと持ち回りで行われており、サービス評価・記録・人材育成等、テーマを決めて意見交換をされている。法人内のグループホームとは利用者とともに行き来されている。		
21		職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	(自己評価)		
			リフレッシュ休暇や互助会でのレクリエーション、社員旅行などでストレス軽減に取り組んでいる。		
22		向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	(自己評価)		
			法人内で人事考課制度をもうけている。資格や年数、勤務態度によつての登用制度がある。法人が大きく、運営者が十分に各個人を把握しているとは思われない。		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
23		初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価)		
			管理者が入所前に面会するようにしている。家族からの相談に応じ、対応できない場合は法人内の相談室に話を持っていくこともある。		

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
24		初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 管理者が入所前に面会に行ったり、利用者の家族が事前に施設見学に来られたりして家族からの相談に応じている。		
25		初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 直接、施設への相談があれば話を伺うが、法人内の病院から入所される事が多く、サービスを決めて入所されている。 希望があれば他のサービスの利用を検討していく。		
26	12	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	(自己評価) 入所前に見学に来られたり、管理者が顔合わせに出向き利用者の情報を得ている。不安をもたれないよう心掛けている。 (外部評価) 管理者は、入居に際して入院先やご自宅に訪問し、お話をされている。又、ご家族が見学に来られてから入居される方も多い。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
27	13	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	(自己評価) 利用者とともに料理をしたり、野菜を育てたり一緒に作業をしながらコミュニケーションをはかり、得意なことを教えてもらっている。スタッフによっては今以上に良い関係を作ることが出来ると思われる。 (外部評価) 豆腐の作り方や調理法、古い調理道具のことを教えていただくことがある。配膳の仕方についてご指摘いただいたり、野菜やお花の植え方等について、細かく教えてくださる利用者もいる。		スタッフの対応がまちまちである。スタッフ会でかわり方を再確認していきたい。

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
28		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 来所時には声掛けを心掛けており、本人の様子を伝えるようにしている。 ケアプランは家族の意向をしっかりと取り入れるよう心掛けている。お出掛けや通院など時間に余裕のある家族にはお願いしている。 家族参加の行事も取り入れるようにしている。		8月に家族参加で納涼祭を検討中である。
29		本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	(自己評価) 入所時や面会の時に家族関係をしっかり聞きスタッフも情報を共有するようにしている。 出来る限り各家族に合わせた対応を心掛けているが十分かは分からない。		家族や親子関係には職員が入りにくい事も多く、少しずつ得た情報を職員同士が共有し関わっていきたい。
30		馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 本人からの要望はあまりないが、人員不足のため十分な支援ができていない。 知人、近所の方が来所される事はある。		人員の増加を上司にお願いしており余裕があれば個々に合わせて外出も取り入れたい。
31		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	(自己評価) 利用者同士の距離をスタッフが把握しトラブルになりそうな場合は仲介役になっている。 レクリエーションを通じて関わりを増やしている。		利用者同士の距離を把握し職員全員が適切な介入ができるように努めたい。
32		関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	(自己評価) 相談があればのるが郵便物等事務的な連絡になっている。契約終了後は他施設に入所される事が多くその後の継続的な関係はない。		

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)	
<p>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</p>						
<p>1.一人ひとりの把握</p>						
33	14	<p>思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>(自己評価) ケアプランを立てる際に、本人の思いを聞き十分に反映できるようにしている。思いや意思を十分に訴えられない方が多く表情や言動から思いをくみ取ったり個々の情報記録からも把握するようにしている。</p>			
			<p>(外部評価)</p>			
34			<p>(自己評価) これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>入院時、生活歴等を聞き取られたり、介護計画を作成する際にもご本人、ご家族に思いや意向を聞くようになっている。意思表示の難しい方についても表情や行動から探ったり、選んでいただけるような場面作りをされている。</p>		<p>家族に記入してもらおう等してアセスメントシートの有効利用を考えていきたい。</p>
35			<p>(自己評価) 暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	<p>毎日、バイタル測定をして、介護記録に最低2時間おきには様子を記録している。毎日の申し送り、月1回のスタッフ会で十分把握するよう努めている。</p>		<p>引き続きスタッフ会でのカンファレンスの時間には力を入れスタッフ間での利用者の情報交換の場としていきたい。</p>
<p>2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</p>						
36	15	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>(自己評価) 毎月1回のスタッフ会でスタッフ全員で話し合い、家族・本人・スタッフでの意見・意向を取り入れ、ケアプランを作成している。スタッフ会ではカンファレンスを行い、評価、計画の見直しを行っている。</p>		<p>引き続き、家族・本人の意見、意向を大切にケアプランを目指していきたい。</p>	
			<p>(外部評価) ご本人、ご家族と相談しながら介護計画を作成されている。ご家族にも直接聞き取ることで、より具体的なご意見がいただけるようになった。</p>			

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
37	16	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	(自己評価)		
			短期3ヶ月、長期6ヶ月で期間ごとに見直しを行っている。入院など急激な状態の変化にはプランを見直し作成するよう心掛けている。		
			(外部評価)		
			毎月、スタッフ会で全員の計画を評価し、3ヶ月に1回見直しをされている。急激な状態変化に対しては、その都度見直しをされている。		
38		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価)		
			日々の様子やケアプランに沿った事を中心に、最低2時間に1度は介護記録に記入している。特記事項については、業務日誌に記入し、朝・夕の申し送りで情報を共有している。		関わり方による反応や具体的気づき・発言等、記録の内容をより濃いものにしていきたいと思っている。行動だけでなく、表情や発言等も記録にしっかり残すよう取り組み中である。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
39	17	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	(自己評価)		
			家族がされている農園の見学を行事に入れたり、家族の持ってこられた木や苗を利用者とともに植え育てている。		お菓子作りや外出、機能訓練的な支援など余裕があれば支援できることは多々あり、取り組んでいきたいと思っている。スタッフの増員について法人にお願いしていきたい。
			(外部評価)		
			職員の人数のこともあり、個別の支援に難しさがあるが、毎月計画を立てて外出をされている。		

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
40		地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	(自己評価) 運営推進会議には民生委員の参加をお願いして情報交換をしている。その他必要に応じ、他機関との連携もとっている。 地域との関わりはまだ十分とはいえない。		ボランティアや慰問訪問等、協力していただける方がいればお願いしたい。
41		他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	(自己評価) 法人内に他のサービスも行っており本人・家族の希望があれば相談にのるようにしている。		
42		地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	(自己評価) 地域包括支援センターの研修などには参加しているが、利用者個別の相談はしていない。必要に応じ協働していく。		
43	18	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 最低でも週に1回主治医が訪問し、利用者全員を診察して下さっている。内科以外は紹介状を書いてもらい他院を受診することがある。		
			(外部評価) 協力医が週1回往診に訪れるようになっている。夜間時にも対応して下さるようになっている。内科以外のご家族が通院介助をされている。		
44		認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	(自己評価) 主治医と認知症専門の医師との間で連携がとれており状態が悪いときは認知症専門医が診に来られる時がある。		

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
45		看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	(自己評価) 母体病院より週に2回看護師の訪問があってアドバイスをもらったり、救急時対応してもらえる体制を作っている。デイサービスを併設しておりデイサービスの看護師からもアドバイスを頂いている。		
46		早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	(自己評価) 入院は母体である病院の場合が多く、情報交換はできている。また、入院があった場合、管理者は最低週に一度は面会に行き様子を確認するようにしている。		
47	19	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	(自己評価) 契約時、グループホームでは継続的な医療行為ができない事をご家族に説明、母体病院への入院が可能であることをあらかじめ伝えている。重度化の兆候が見られた場合、具体的に希望を聞くが十分に全員で共有できていない。		「悪くなってもチューブでの食事はさせたくない」 「悪くなれば 病院に入院させたい」等家族との会話の中で聞かれることがある。アセスメントシートを利用しスタッフで共有していきたい。
			(外部評価) 入居時、重度化・看取り等の支援について、事業所のできる支援、又、状態によっては、母体病院へ入院ができることなど説明されている。又、利用者の状態に変化があった際には具体的に話し合うようにされている。		
48		重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	(自己評価) 常勤の看護師がいらないため医療看護面での限界がある。主治医との連携は十分にとれており、家族の意向を取り入れながらホーム内でできる事を支援している。		
49		住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	(自己評価) 入所時は、受け入れ前の施設や契約時の情報をスタッフで共有するようにしており、退所時はサマリーを書き情報提供を行っている。		

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1.その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1)一人ひとりの尊重</p>					
50	20	<p>プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	(自己評価)		
			<p>声掛けや対応はスタッフによって違いがみられ丁寧語を使っていなかったりプライバシーへの配慮がかけたり見直すところがある。</p>		各自、見直すとともにスタッフ会や研修などで勉強する。
			(外部評価)		
			<p>ホーム新聞へ写真等を載せる場合にはご家族の了解をとり、氏名はイニシャルにされている。職員が、居室に入る際には、ご本人に許可を得ておられる。接遇や声かけなどに関しては、管理者が個人的にアドバイスされたり、年2回の面接時に、話し合われている。</p>		
51		<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	(自己評価)		
			<p>毎月、利用者のカンファレンスは時間をかけており、利用者の思いや関わり方など確認し支援している。利用者本人の思いや希望をくみ取れるよう努力しているが日によって忙しい時は職員が決めてしまうことがある。</p>		忙しくてもスタッフペースにならないよう心掛けていきたい。
			(外部評価)		
52	21	<p>日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	(自己評価)		
			<p>スタッフ数に限りがある中で、排泄・食事・入浴などに時間をとられ、全利用者の希望に沿った十分な支援ができていない。</p>		スタッフ全員が協力し合い、支援の幅を広げていきたい。テレビを見ることが好きでも声掛けしスタッフが一緒に活動すれば笑顔で作業される方もあり、支援方法も見直していきたい。
			(外部評価)		
			<p>夜眠れない方には、ゆっくりテレビを見たり、話をされる等、個々のペースに合わせておられる。機能低下や意欲低下のことも踏まえて無理強いしないことを心がけておられる。</p>		

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
53		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	(自己評価) 月に一度、美容師に来てもらい希望の髪形にしている。また、家族との外出時になじみの散髪屋を利用される方もいる。 普段から帽子やスカーフ、ヘアピン等オシャレを楽しまれている。		望む店があれば今後検討していく。
54	22	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) それぞれの能力に合わせて調理、テーブル拭き、お盆拭き等して頂いている。春にはつわぶきを一緒に採りに行き教えてもらいながら調理した。食後もお膳を運べる人には運んでいただいている。 (外部評価) 現在、重度化に伴い、食事の支度を手伝える利用者が少なくなってきている。食材を切ったり、お盆を拭く等できることを無理なく行えるよう支援されている。畑で獲れた小松菜やトマト、ブルーベリーが食卓に上り、水遣りや収穫をした利用者に感謝しながら食事をされている様子がうかがえた。		お茶くみやとりわけ、箸配りなど利用者が出来ることを見直し、スタッフが誘導するよう努めていきたい。
55		本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	(自己評価) タバコを吸われる方が一人おられるため安全と健康面に気を配り吸っていただいている。10時、おやつ水分補給時には希望を聞いて対応している。		
56		気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	(自己評価) 毎日の記録を確認して、声掛けでトイレ誘導している。出来る限りトイレで排泄できるよう取り組んでいる。		

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
57	23	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	(自己評価) 2、3日に1度の入浴になっている。 拒否のある方にも粘り強く声掛けし入浴を促している。 時間や回数等、スタッフの都合になりがちである。		スタッフ数を確保し、本人の意志を聞いて入浴できるよう取り組みたい。
			(外部評価) 職員の体制が整っている時間帯に入浴支援されている。介護度が重度の方は、デイサービスのリフト浴を利用されている。		さらに、利用者それぞれの習慣やタイミングに合わせた支援とともに、介護度が重度の方もお風呂を楽しめるような工夫を職員で話し合われてはどうだろうか。利用者一人ひとりがリラックスして、くつろげるような工夫を重ねていかれてほしい。
58		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	(自己評価) ほとんどの方は本人の希望に沿って休んでいただいている。外出後や入浴後などは少し休まれるよう心掛けている。 夜間はエアコンや電気の調整を随時行っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
59	24	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	(自己評価) ケアプランに役割、楽しみ等取り入れるようにし、花札、新聞おり、洗濯物たたみ等、日課として役割を持たれている方もいる。全ての利用者に支援はできていない。		家族からも情報を収集し、各利用者の支援の幅を広げていきたい。
			(外部評価) 日めくりをくの方や新聞を取りに行かれたり、カーテン開閉・裏庭のお世話・洗濯物を畳む・洗濯物のしわを伸ばす等、利用者の力量や習慣等にも合わせて役割を持っておられる。高校野球や相撲の応援をされている方もいる。		
60		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 自己管理のできる方、又は持っていないと不安な方は持たれている。ご家族の希望でスタッフが管理している方もいる。 買い物希望があれば付き添うようにしている。		

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
61	25	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	(自己評価)		
			スタッフの人数に余裕のある時は、買い物、散歩、戸外に出るようにしている。庭の畑に野菜、花を植え成長を楽しみにして出られる方もいる。		外出となると大変なのでテラスや玄関を利用し外の風に触れる機会を設けていきたい。
			(外部評価)		
			月1回、外出の機会を設けておられる。散歩や買い物に行かれる方もいるが、利用者個々の希望に沿った外出は、身体状況のこともあり、難しさもある。		管理者は、ふるさと訪問等、利用者が行ってみたいところに出かけるような取り組みも検討したいと話しておられた。
62		普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	(自己評価)		
			月に1回程度遠出している。家族も一緒に参加されることもある。 家族本人の要望があれば個々で外出されている。		ふるさと訪問であったり、家族へ会いに行く等、スタッフ数に余裕ができれば取り組みを行ってきたい。
63		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価)		
			ホーム内に公衆電話があり自由に使って電話されたりかかってくることもある。		年賀状、暑中見舞い等郵便を利用する支援を行ってきたい。
64		家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	(自己評価)		
			来客者にはお茶、イス、テーブル等準備して各部屋でゆっくりくつろいでいただいている。スタッフも玄関までお迎え、お見送りし笑顔で対応する等、気軽に来所できる雰囲気を作れるような対応に努めている。		

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援					
65		身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 全員が具体的な行為については把握できていないが対策は随時行っている。 ベット柵をはずし鈴をつけたり、特に気をつけないといけな方は見守り、巡回を頻繁に行っている。		今後もベット柵ではなく鈴などで工夫し拘束のないケアに取り組みたい。 「具体的な行為」についてスタッフ全員で確認したい。
66	26	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	(自己評価) 日中、鍵は使用せずチャイムで開閉の確認をしている。1人で出ようとされる方がいれば、スタッフ付き添いで出るなどの対策をとっている。		外へ出ようとされる方にはできるだけ付き添うことでストレスにならないようにしていきたい。
			(外部評価) 日中は施錠しないようにされており、玄関にチャイムや鈴を取り付け、出かけられる方には職員が付き添うようにされている。		
67		利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	(自己評価) 2時間おきには様子を確認し記録に残している。利用者の状態に応じ30分ごとなど様子観察を増やしたりしているため、誰が何をしているかは把握できている。		見守りや観察は十分に行っているつもりでも、事故・ヒヤリハット届けを書くこともあり、スタッフ会で事故の再発防止策を確認していきたい。
68		注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	(自己評価) 片麻痺がある方、視野が欠損している方などの足元には物を置かないよう環境整備をし、注意の必要な物に関しては扉に入れて保管するなど個々に対策をとっている。		車椅子の入居者が急に発進されることがあるため、他者と接触しケガなどないよう十分に見守り危険を防ぎたい。
69		事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	(自己評価) リスクの高い方などは見守り、付き添いなどをし、事故があれば事故届けを記入し再発防止に努めている。日常おこらない火災や行方不明についての知識が薄いので、研修や非難訓練などで勉強していきたい。		夜間帯であったり、起こりにくい事故に対してマニュアルを作成しておきたい。

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
70		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	(自己評価) 法人付帯施設の勉強会で交代に学んだり、看護師から急変時の対応を学んだりしている。昨年は消防署の協力を得て普通救命救急の講習を受けた。		全スタッフが定期的に行えていないので勉強会や研修の機会を設け参加していきたい。今年も普通救命救急の講習をお願いしたい。
71	27	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	(自己評価) 避難訓練を行っているが、全員参加でないため十分だとは言いえない。特に夜間は不安である。運営推進会議などでも地域の方に災害時には協力していただきたいとお願いしている。 (外部評価) デイサービスと合同で昼間に、避難訓練を行っておられる。。職員の家が近いために、非常時には駆けつけることとなっている。		災害に対してのマニュアルを作り、スタッフ全員で周知できるよう取り組みたい。非常用の食料や緊急持ち出し品などは現在準備中である。 運営推進会議時に地域の協力をお願いされている。今後も、さらに、いざという時に駆けつけてくださる方を増やしていかれてほしい。
72		リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	(自己評価) 転倒、転落、誤嚥などの危険性は家族来所の際や電話で相談している。また、ケアプランに家族の意見を取り入れるため、現状や今後について話す機会が増えている。		今後も随時、家族の方々に説明、相談し利用者が快適に過ごせるようにしていきたい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
73		体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	(自己評価) 利用者の観察は十分に行っている。日々のバイタル測定、食事量、排便のチェックなど異常のある場合は主治医へ報告し指示をもらっている。スタッフ間では毎日朝夕申し送りで情報を共有している。		今後もバイタルサイン、利用者の訴え、表情などで状態の変化を見逃さないようにしたい。

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
74		服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 職員全員が理解し把握はできていないが、用法や用量など薬の説明は保管しておりいつでも目を通せるようにしている。薬による症状の変化などは主治医に報告し職員間でも申し送りの時などに報告している。		職員全員が把握できるよう夜間帯などを利用し薬の作用、副作用について勉強していきたい。
75		便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	(自己評価) 特別な対策はとっていないが、日課のラジオ体操、水分補給の時間を作り、牛乳やココアなどを飲まれている。		内服薬に頼りがちな為、食物繊維の多いバランスのとれた食事などで自然に排便があるようにしたい。
76		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	(自己評価) 毎食後の口腔ケアを行っている。誘導や介助などその人にあった支援方法をとっている。		義歯を入れたまま入眠される方もいるため、定期的にはずし洗浄剤につけるよう声掛けしていきたい。
77	28	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事は記録しており把握できている。量をとられない方は家族に相談し好きなものを食べていただいたり、こまめに勤め提供している。嚥下状態の悪い方には、トロミを使用したり、キザミにし提供している。		栄養バランスはスタッフが考えたメニューであるため、十分であるとはいえない。栄養バランスを考えた食事を提供していきたい。
			(外部評価) 食事の量は記録されており、月1回体重測定をされている。水分は摂取量が少ない場合は申し送り、気を付けて補給に努めておられる。		
78		感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	(自己評価) マニュアルがあり、普段からも手すりの掃除、台所の除菌は行っている。流行時期には掃除回数を増やしたり、うがい手洗いを促す張り紙をしたりし対応している。		スタッフの体調不良にも全員が快く応じれる環境を作り感染源を持ち込まないように努めたい。

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
79		<p>食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>毎晩、調理用具はハイターで消毒している。食材も新鮮なものを使う分だけ前日に届けてもらっている。刺身などはその日に買いに行くようにしている。</p>		<p>配達された食材に安心せず、しっかり点検し新鮮で安全なものを提供できるよう努めていきたい。</p>
<p>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</p> <p>(1)居心地のよい環境づくり</p>					
80		<p>安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>玄関には花や植物を飾り、利用者と職員で作った壁画や利用者の写真を貼ったりして雰囲気を作っている。段差のない出入りしやすい造りになっている。</p>		
81	29	<p>居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>トイレ等、なおいに関しては、こまめに換気をおこなっている。日差しが差し込む時は、ブラインドやカーテンで調整することで居心地良い環境作りをしている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>玄関には七夕飾りが飾られ、金魚や季節の花が飾られていた。</p>		<p>共同スペースに庭から取った花を少しでも飾るよう心掛けていきたい。</p>
82		<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>玄関、廊下にイスやソファを配置し、少人数でも過ごせる場所を作っている。 家族の訪問や来客時に利用してもらっている。</p>		

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
83	30	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価)		
			ベット、タンスは備え付けのものがある。テレビや冷蔵庫、服かけなどの家具や電化製品は自由に持ち込みしていただいている。 壁には家族の写真や飾りつけ、本人の作品を貼ったりしている。		いつも写真や本人の作品が同じものになっていないよう3ヶ月に一度、貼りかえて工夫し心地よく良い部屋にしていきたい。
			(外部評価)		
			テレビや冷蔵庫等を各自持ち込まれている。ご家族の写真やご本人の作品等も飾られ、入り口には職員手作りの名札を掲げておられた。		
84		換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	(自己評価)		
			日中、窓を開け換気している。冷暖房調整は利用者が出来ないときは適宜スタッフが調整するようにしている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり					
85		身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価)		
			昨年、浴室・トイレの手すり設置、共同スペースの手すり設置を行い、より自立した生活ができる環境となっている。建物内は段差もなく広く車椅子でも十分動きやすくなっている。		消火器やイス、車椅子の方にとっては障害物となりえる物も見られる。利用者のADL状態を十分に把握し事故の起こらないよう随時見直しを行う。
86		わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	(自己評価)		
			場所を迷わないよう部屋やトイレなど表示し、部屋の戸には飾り、1人1人の作品など貼っている。床にテープをはり混乱を防ぐような工夫も行っている。		テープを床にはり部屋を間違えないように工夫しても、迷われていることがある。様子をしっかりと観察し対応を更に工夫、検討していきたい。
87		建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんで、活動できるように活かしている	(自己評価)		
			テラスは車椅子が出られるようになっている。日向ぼっこをしたり、野菜作りを見られたり花に水遣りされたりしている。庭に向けて手作りスロープがあり中庭へも降りれるようにしている。		気候に左右されるがテラスでお茶したり、食事したり、使用する機会を増やし、有効に利用していきたい。

. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果 (該当する箇所を 印で囲むこと)	判断した具体的根拠
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (自己評価) 1 ほぼ全ての利用者の ② 利用者の2/3くらいの 3 利用者の1/3くらいの 4 ほとんど掴んでいない	ケアプラン作成時には必ず、本人にどんな生活をしたいか、したいことはないか聞いている。また、利用者との対話の中から思いや意向をくみ取ったり、家族から聞いたりにしている。
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (自己評価) ① 毎日ある 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	10時と3時のお茶の時間と、昼食時は、皆でテーブルを囲み、コミュニケーションをとっている。
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (自己評価) ① ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	自ら、訴えられる方は、本人のペースで生活していただいている。また、あまり意思表示されない方にも、声掛けするなどして、なるべく本人の意思やペースを尊重して生活して頂く様にしている。
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (自己評価) ② 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	歌をうたったり、料理をしたり、洗濯物を干したり、たたんだり、野菜の収穫や、創作活動など、好きな事や得意なことをして頂くよう支援している。良い表情をされる事も多い。
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (自己評価) 1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	自宅やふるさとへは、家族に連れて行っていただくことが多い。月に一度程度は、行事として外出するように努力しているが、利用者の行きたいところへ出掛けているかは、分からない。
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (自己評価) ① ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	母体が病院であり、最低でも週一回は主治医の往診がある。毎日様子を主治医にファックスで報告し、必要な時は電話で指示をもらっている為、安心して生活されている。
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (自己評価) ② 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	要望はしっかり聞くように努め、要望についての対応、状況の変化についての対応は行うように心掛けている。
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (自己評価) ① ほぼ全ての家族と 2 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない	利用者の入れ替わりが少なく、家族とも良い関係が築けている。家族の来所時には、最近の様子を伝えたり、情報を交換したりしている。また、ケアプラン作成時には家族の要望を聞いている。
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (自己評価) 1 ほぼ毎日のように 2 数日に1回程度 3 たまに ④ ほとんどない	利用者の家族や、近所の知人の方はよく来られているが、全く利用者との関係のない方の来所はほとんどない。

項目	取り組みの成果 (該当する箇所を 印で囲むこと)	判断した具体的根拠
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (自己評価) ③あまり増えていない	運営会議だけでなく、地域の部落総会に管理者が出席したり、祭りや避難訓練に参加したり、事業所の存在は徐々にアピールできているが、地域の方とのつながりが広がったとは言い難い。
98	職員は、生き生きと働いている (自己評価) ②職員の2/3くらいが	この1年離職率も低く、それぞれの役割を果たしながら働けていて、スタッフ間のチームワーク、雰囲気も良いが、職員の人数が少なく、業務時間内に業務が終わらない事がある。また、有給がとりづらい。
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う (自己評価) ②利用者の2/3くらいが	利用者は特に何もおしゃらないが、スタッフに余裕がなく、利用者に十分な支援が出来ていないこともある。まだ支援できることが沢山ある。
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う (自己評価) ②家族等の2/3くらいが	まだまだ利用者へ支援できることはあると思うが、家族の方からは特に要望はない。また、ケアプラン作成時に家族の意見も伺っているし、何かあればすぐに連絡できるようにしている。

【特に力を入れている点・アピールしたい点】
 (この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

(自己評価)

・庭が広く、利用者のご家族から頂いたブルーベリーを植えて、実を収穫している。また、季節ごとの野菜を栽培、収穫して、食材として利用している。
 ・母体が病院であり、主治医との連携も十分にとれている。主治医は電話で24時間対応していただき、体調が悪くてもすぐに指示がもらえたり、入院できるため、医療面において利用者やそのご家族には、安心していただける。
 ・ここ1年は利用者、スタッフの入れ替わりも少なく家族との交流・情報交換を大切にし、利用者を家族・スタッフとともに支援していく体制作り力を入れてきた。家族が安心できるホーム作り、利用者が楽しめるホーム作り、家族が安心できるホーム作りを目指している。